

高松市中央卸売市場の再整備を進めています。「高松市民の台所」とも称される市民生活に欠かせない生鮮食料品等の流通拠点が時代にあわせて新しく生まれ変わります。

ホームページのうたい文句に、「全国から四季折々の新鮮な魚介、青果、花が集まります。なかでも天然の生簀と言われるほど少量多品種で必ず旬の魚がいる瀬戸内海の地魚、温暖少雨な瀬戸内式気候で太陽の恵みをたっぷりうけたフレッシュな郷土野菜や香川オリジナル品種の青果・・・が自慢です。」とあります。ただ、「うみまち商店街」と名付けられアートで注目されている関連商品売場棟も含めて、青果部、水産物部の建物は、築40年以上が経過をしており、老朽化が進み、早急な再整備が求められています。そこで、平成27年に基本構想、基本計画を策定し、青果棟を約5キロメートル離れた朝日町に移転再整備することとし、水産物棟等を現青果棟跡地も含めた現市場エリア内に整備すること、水産物棟の跡地などについても利活用を図ること、との基本的な方向性を定め、事業を進めています。

まずは新たな青果棟の移転再整備です。朝日町において、雨天時にも濡れずに品物の積み下ろしができるよう、全国的にも珍しい、通路や荷捌き場のほとんどを屋根や庇で覆う設計となっています。そして、単に流通拠点としての機能を果たすだけでなく、敷地内に農園の整備など市民に開かれた場所となることを目指します。

水産物棟については、再整備、跡地利用も含めて新しい観光スポットとしての賑わい創出を検討します。高松駅から約2キロメートルしか離れておらず、交通の利便性が高い上に、海に面したまとまった敷地が確保できる稀有な場所であり、船の利用も考えると非常に大きなポテンシャルを秘めたエリアです。民間の資金や技術、経営ノウハウを活用することにより、より良いサービスの提供ができる手法の導入を視野にいれながら、インバウンドを含めたユニークな観光の受け皿となるさまざまな可能性を検討して参りたいと思います。

